

北海道からのおくりもの

小学校第5学年

目標 牛乳や他の農産物を通して、私たちの暮らしが北海道とつながっていることに気付く。

生活課題（または既学習内容など）
 ・4年生社会「くらしを支える電気」
 ・特別活動（安全指導）

支援及び留意点 ①②：教師の問いかけ、◎留意点、●想定される児童の発言、→教師の発言		資料
導入	<p>①みんなの生活で電気が止まると、どんなことが起こりますか。</p> <p>◎社会科「くらしを支える電気」の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電気がつかなくて真っ暗 ●電車が動かない ●信号が動かなくて、事故も危ない ●水が出ないかも <p>◎電気は私たちの暮らしを支えていることを確認する。</p>	
展開	<p>②この機械は何でしょう。給食に出てくる牛乳に関係があります。</p> <p>◎ヒントとしてさく乳をしている写真を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●牛乳 <p>→この機械を動かしているものは電気です。</p> <p>③もし電気が止まったら、どうなるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●牛乳が機械ではしぼれない ●牛乳が足りなくなる <p>◎北海道で多くの生乳が生産されていることを伝える。</p> <p>→ベテランの人の手でしぼると1日に3頭しぼれるそうです。北海道にいる牛は83万頭です。</p>	<p>1. さく乳機(写真)</p> <p>2. さく乳の様子(写真)</p> <p>3. 都道府県別生乳の生産量(グラフ)</p>
つなげる	<p>④ほかにどんな農産物が北海道で主に生産されていて、国内に流通していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●じゃがいも ●たまねぎ ●小麦 <p>⑤これらの農産物は、電気がなくなったらどうなるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収穫できなかつたり、生育できなかつたりする ●国内の食べ物が不足する <p>◎災害が起こると、自分たちの生活以外でも、農産物の生産や流通でも困ることがあることに気付かせる。</p>	<p>4. 北海道の国内生産量上位の作物(グラフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●じゃがいも ●たまねぎ ●小麦

評価の観点

牛乳や他の農産物を通して、私たちの暮らしが北海道とつながっていることに気付くことができたか。

掲示教材

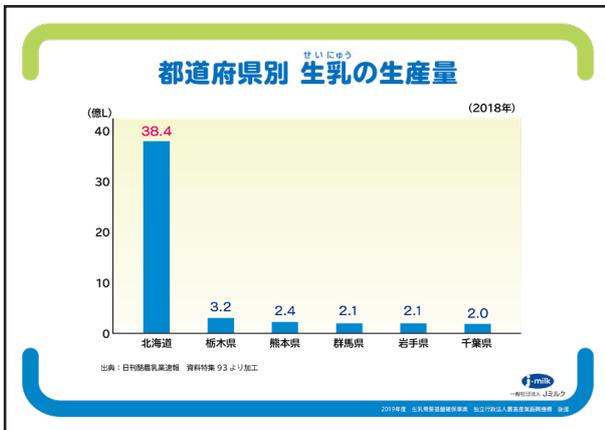
1. さく乳機(写真)



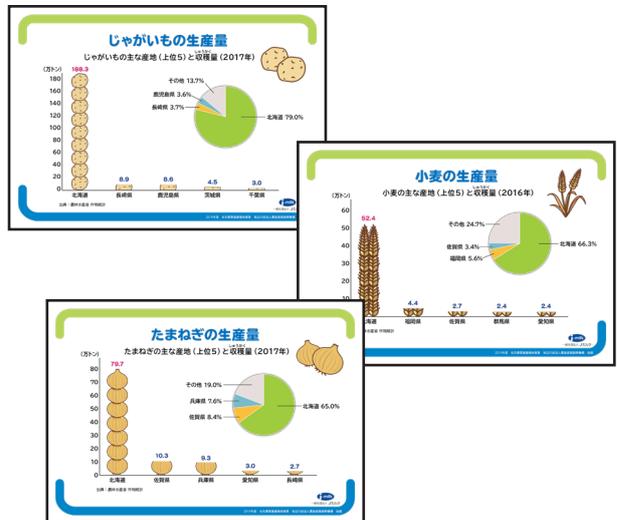
2. さく乳の様子(写真)



3. 都道府県別生乳の生産量(グラフ)



4. 北海道の国内生産量上位の作物(グラフ)



講評

- 4年生社会科では、飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解し、さらにそれらの事業が果たす役割を考え、表現することが内容となっています。本指導では、子どもたちにとって身近で具体的な牛乳や農産物を通して社会科の内容をさらにつかめるような指導となっています。指導にあたっては、社会科の「暮らしを支える電気」の学習後に取り上げると学びが深まります。
- 子どもたちは、北海道が農産物の一大産地であることは知っていますが、電気が止まってしまると生乳をしぼることができなくなることは知りません。しかも、北海道の乳牛の多さを考えると電気が止まることは決定的なダメージとなるのです。さく乳機から牛乳、北海道からのたくさんの農産物と上手に構成されている指導案です。
- 子どもたちが気付くために、ここでは「数字」がポイントとなっています。授業が45分であるならば、「北海道だけで83万頭の牛がいます、人がしぼったらどれくらいの時間がかかるかな？計算してみよう」など膨らませてみるのもよいでしょう。
- 本指導では、私たちの暮らしが北海道とつながっていることを中心に展開していますが、牛乳や農産物を通してつながる他の地域を取り上げることも可能です。
- 本指導をきっかけに、電気だけでなく飲料水の大切さについても考えることができます。

【監修・評価】

武庫川女子大学教育学部教育学科 准教授 藤本勇二 先生